

綱ト云、獮猴口藤ヲ以テ柱藤ヲ四筋立テ、其下ニ一人ノ入ルベキ程ノ籠ヲ作リ附テ、命綱ニ懸、其籠ノ前後ニ綱ヲ二筋附テ、兩岸ニ引張リテ引綱トセリ、是ヲワタル人ハ籠中ニ立て、彼柱藤ヲ左右ニカイコミ、其身ヲ固ム、引綱ヲモ手操テワタリ、或ハ籠ニモ入ラズ、命綱ニ脚ヲカラミ手操テワタル已籠中ニ居住ナガラ、引綱ヲモ手操テワタリ、或ハ籠ニモ入ラズ、命綱ニ脚ヲカラミ手操テワタルモアリ、其業サナガラ、翅アルガ如シ、凡長廿餘間、或ハ卅餘間ナルモノアリ、命綱モ常ニ緩ミテ、人ワタルトキ、岸ヨリ川ノ半マデハ其走ルコト箭ヲ放ツニ似タリ、又向フノ岸ニ至ルハ、是ニ異リテ漸々ト引揚ルナリ、乗ル人其籠中ニ苦シミ、魂ヲ消ト可謂、籠ノワタリハ歌ニモ加賀ノ白山ニ讀メリトナン、

〔千載和歌集<sub>戀</sub>〕百首歌奉りける時、戀の歌とてよめる、

前參議親隆

みちのくのとづなのはしにくるつなのかたえずも人にいひ渡るかな

〔國花萬葉記<sub>陸奥</sub>〕とづなの橋 名景はつなばしのよしよめり

〔甲斐國志<sub>古蹟</sub>〕巨麻郡西河内領

一盤橋 残簡風土記ニ巨麻郡南限盤橋トアリ、按ニ○中此處左右涯壁、立數千尺、岩石競聚テ奇絶甚シ、河水屈折、其内ニ陥テ流ル、上古ハ上ノ磐連ナリテ橋トナリシニヤ、今内房ヨリ長貫村ヘ渡ルニ、繩橋トテ藤蘿ヲ纏架タル危橋アリ、<sub>テ</sub>櫻田殿領セラレシ頃マテ、即盤橋トハ此所ヲ云ナランカ、

〔東遊記〕九十九橋

邊國山中に懸渡せる所の小橋には、朝六ヶの橋、かづら橋など、奇妙の橋少からず、

〔飛州志<sub>土地</sub>〕橋梁之製

藤橋。是ヲ造ルハ獮猴口藤トイフ太キ藤ヲ幾筋モ結ビ、延テ綱ト成シ、兩岸ニハリ亘シ、岩石ニ